

(別紙3)

介護ロボット使用状況報告書

令和5年 10月30日

法人名	機器導入事業所名	施設の種別
社会福祉法人健恒会	船橋健恒会ケアセンター	特別養護老人ホーム
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名	
見守りロボット	HltomeQ ケアサポート	
介護ロボット導入時期	導入台数	
令和3年3月29日	78台	
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】 ※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。 1日24時間利用。室内のセンサーが検知した転倒、転落、微体動異常、起床、離床等の通知は職員が携帯する端末に届く。通知を受けた職員はスマートフォンで居室の状況が確認でき、次の対応に繋げる。		
【介護ロボットの導入効果（導入による業務改善状況等）】 ※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。 前項の使用状況にて業務改善に着手している。居室内で事故が発生した際、録画されている事故発生時の状況で、病院受診の判断や、再発防止策の検討ができる。 センサー感知による通知が職員に届いた際、居室内の状況がスマートフォンで確認できるため、職員が居室へ向うべきか判断ができる		
【介護ロボットの不都合な点】 ※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。 各通知は可能性の段階で職員に届くため、確実性に欠け、通知数も非常に多い。 職員はその都度介助中の手を止め、スマートフォンを確認しなければならないため、センサーの感度をあげてほしい。 優先度の高い通知は音を変えたり、日中と夜間でご利用者の様子は変化するため日中と夜間で通知の設定が自動的に切り替わる仕組みがあると良い。		